岩手県の六次産業化及び農商工連携による地域経済活性化

岩手大学 農学部 農業経済学研究室 4年
佐藤駿悟

1

はじめに

●人口減少や食の多様化・・・国内農業売上高減少
⇒付加価値をつける六次産業化や農商工連携が推進

●現状・・・多大なコストにより、失敗例も多い

●六次産業化等は、農業のみならず、他産業や地域と関連
⇒RESAS活用により、マクロな視点から客観的データに基づいた分析が可能

●今回は岩手県の六次産業化や農商工連携により期待される効果をRESASを用いて提案

2

課題認識：所得の低さ

所得（一人当たり）2010年

指定地域：岩手県

	雇用者所得	その他所得
所得（一人当たり）	340万円	197万円
所得（一人当たり）順位	45位	18位

岩手県　一人当たり所得

- 雇用者所得は全国で45位
- 他の東北5県の平均は約360万円
  岩手県は東北の中でも低い水準

現状分析

地域経済循環率
86.9%

地域経済循環図
2010年

指定地域：岩手県

分配（所得）

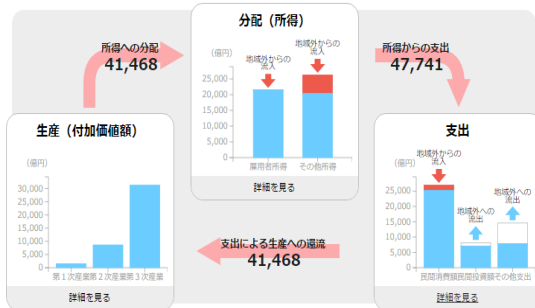
所得への分配
41,468

所得からの支出
47,741

生産（付加価値額）

支出

支出による生産への還流
41,468

詳細を見る

岩手県　地域経済循環図

- 所得からの支出に対して、支出による生産への還流が少ない

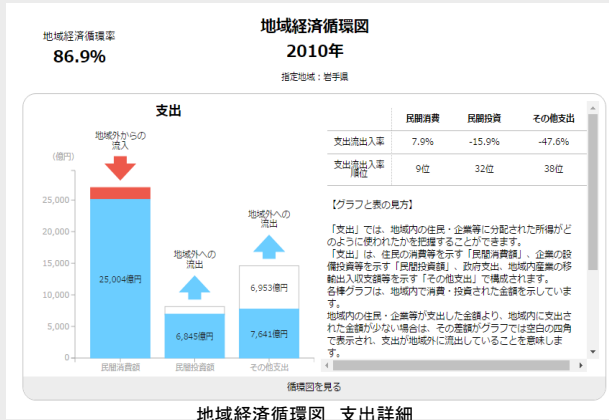
所得の低さの原因

地域経済循環率 86.9%

地域経済循環図 2010年

指定地域：岩手県

	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出入率	7.9%	-15.9%	-47.6%
支出流出入率順位	9位	32位	38位

地域経済循環図　支出詳細

- ●民間消費は地域外からの流入が見られるが、その他支出は地域外への流出が約50%
- ●その他支出の流出入率順位は38位全国的に見ても高い流出率
- ●地域内産業の移輸出入収支額が大きな赤字であると考えられる

岩手県の所得の低さは、地域内産業の移輸出入収支の赤字が原因ではないか？

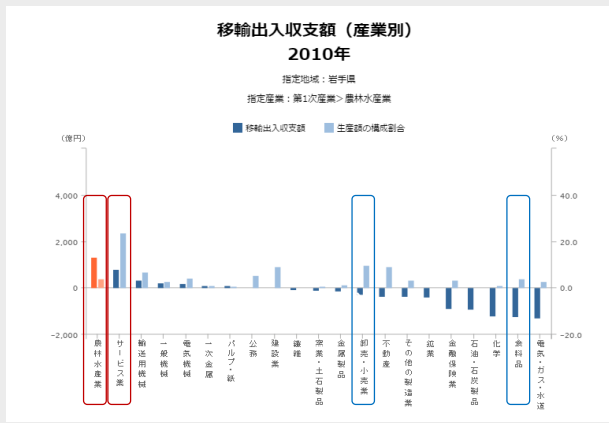
5

解決案に向けて：岩手県の強みと弱み

移輸出入収支額（産業別）2010年

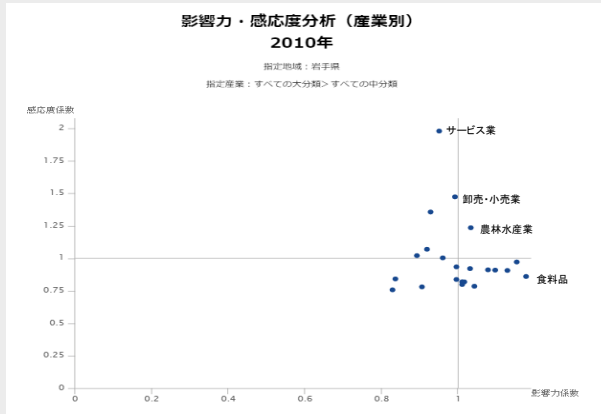
指定地域：岩手県

指定産業：第1次産業＞農林水産業

岩手県　産業別移輸出入収支額

- ●農林水産業やサービス業は黒字で岩手県の稼ぐ産業
- ●食料品や卸売・小売業は赤字
- ●強みの農林水産業を活かし、食料品を内製化

地域経済循環の活性化につながるのではないか？

6

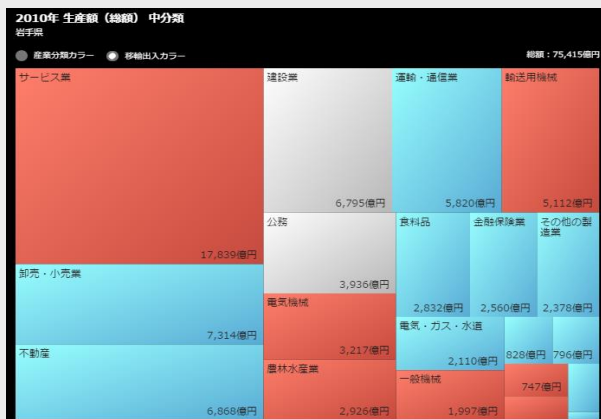
農林水産業と食料品がもたらす効果

岩手県　産業別影響力･感応度分析

産業	影響力係数	感応度係数
食料品	1.18	0.86
農林水産業	1.03	1.24
卸売･小売業	0.93	1.36
サービス業	0.95	1.98

●影響力係数の高い食料品と農林水産業を一体的に推進する

感応度係数の高い卸売･小売業やサービス業に波及効果を与える期待

7

期待される波及効果

岩手県　生産額（総額）　移輸出入カラー

●サービス業と卸売･小売業は生産額が大きいため、大きな経済効果が期待

●卸売･小売業は移輸出入収支額がマイナスであり、この改善も期待

8

小括

地域外からの移入が多い食料品を、岩手県の強みである農林水産業と一体的に進める、つまり六次産業化や農商工連携を推進することで、経済効果が期待できる！

サービス業や卸売・小売業等に波及効果を与えることで、地域経済が活性化され、所得の向上につながるのではないか！？

具体的に何の食料品？：消費から

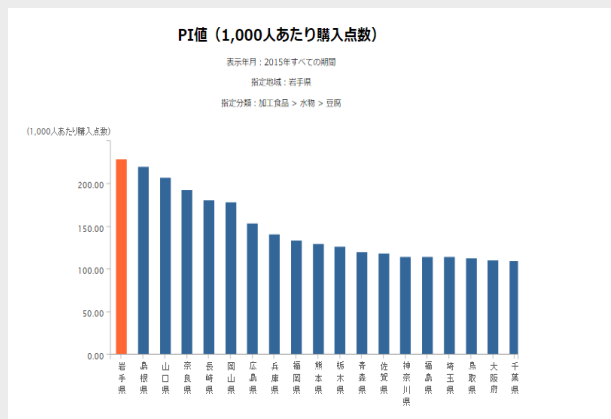
特化係数（購入金額） - 商品分類別

表示年月：2015年すべての期間

指定地域：岩手県

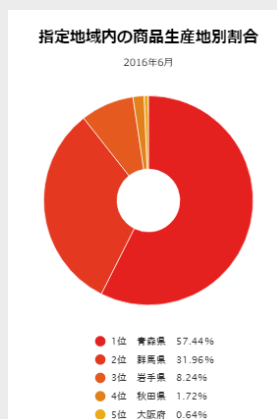
岩手県　商品分類別特化係数(購入金額)

●岩手県民は食料品のうち水物(豆腐・納豆・油揚げ等)の購入金額が多い

岩手県民の豆腐購入

全国　豆腐の1000人あたり購入点数

- ●特に豆腐の購入点数は全国1位！
- ●岩手県内の豆腐の需要は確実にある

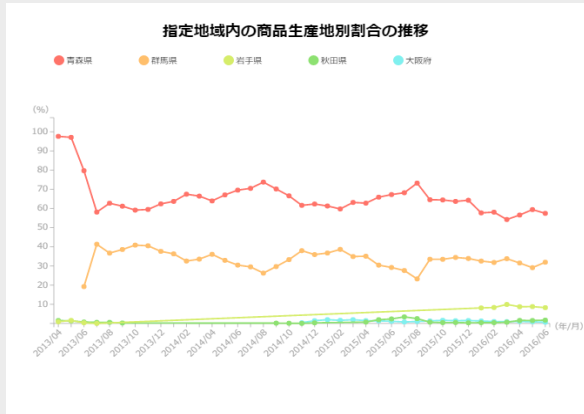
11

岩手県で消費される豆腐の生産地

岩手県　豆腐の生産地別割合

- ●ほとんどが県外で生産
- ●県内での生産は1割未満
- ●購入点数は多いが県内での生産は少ない

内製化するべき食料品の典型例！

12

岩手県の豆腐生産の動向

●近年少しずつ伸びてきている

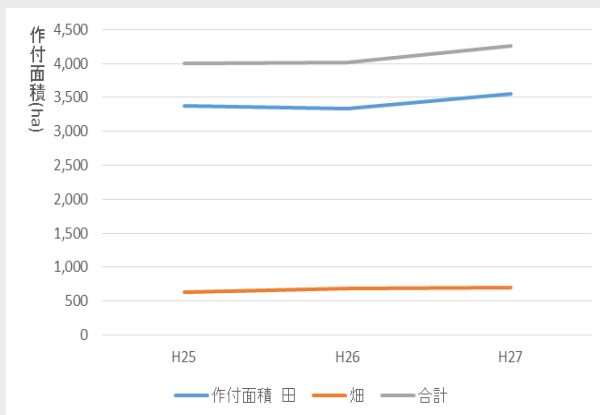
岩手県　豆腐生産地別割合の推移

原料である県内の大豆生産動向

岩手県　大豆収量と収穫量の推移

	H25	H26	H27
10aあたり収量(kg)	98	136	153
収穫量(t)	3,920	5,470	6,520

●作付面積は少しずつ上昇

●3年間で収量が急増し、収穫量が増加

●多収の新品種「シュウリュウ」導入

岩手県　大豆作付面積の推移
農林水産省参照
http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/daizu/d_data/pdf/002.pdf

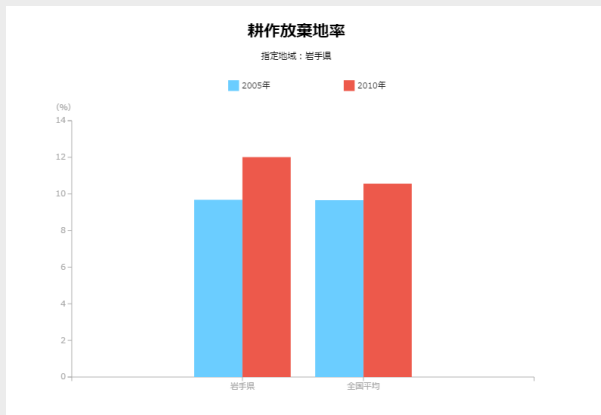
新品種：東北166号「シュウリュウ」

写真　シュウリュウ
「大豆新品種 シュウリュウの普及に向けた取組について」岩手県農産園芸課
http://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/daizu/kyougikai/pdf/mame_68-4.pdf#search=%27%E5%B2%A9%E6%89%8B%E7%9C%8C+%E5%A4%A7%E8%B1%86+%E7%94%9F%E7%94%A3%27

- ●平成26年2月から岩手県の奨励品種に登録
- ●従来のリュウホウより10～15%収量増
- ●倒伏性に優れる
- ●豆腐への加工適性に優れる
⇒県産豆腐の普及へ

15

耕作放棄地の利用

耕作放棄地率
指定地域：岩手県
2005年　2010年
(%)
岩手県　全国平均

岩手県　耕作放棄地率

- ●耕作放棄地率は全国平均と比較して高く、課題の一つ
- ●耕作放棄地を利用して大豆生産を行うことができれば、課題解決にもつながる

16

総括

①課題：岩手県の所得の低さ

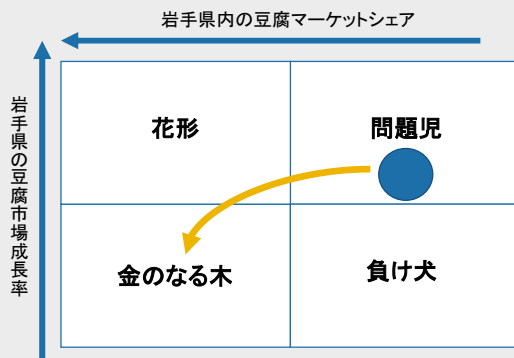
②現状分析：支出における地域外への流出が多い、課題は食料品、強みは農林水産業

③解決案：食料品と農林水産業を一体的に、つまり六次産業化や農商工連携を推進し、地域経済活性化

④具体案：消費が多い豆腐を、生産が増加している大豆を利用して、地産地消型の豆腐を生産

⑤今後：豆腐は一例、農林水産業と食料品を一体として推進することが重要

17

今後の方向性：PPMにあてはめて

- 経営学におけるプロダクトポートフォリオマネジメント（PPM）
- 地産地消豆腐は現在は問題児のポジションにあると推定
- 今後は大豆生産の収量増によるコスト低下等により、地産地消豆腐のシェアを高め、金のなる木へと成長させることが望ましい

18